

1月例会

2022. 1. 19
日時 令和四年一月十九日(水)

テーマ 自然実験がもたらした実証経済学の変革

講師 東京大学大学院経済学研究科・公共政策大学院 教授

川口大司氏



労働経済学 - 理論と実証をつなぐ, 有斐閣 (2017/12/22)

■ 略 歴

1994年早稲田大学政経学部経済学科卒。2002年、米ミシガン州立大学経済学部博士課程修了(Ph.D. in Economics)。筑波大学社会工学系講師、一橋大学大学院経済学研究科教授等を経て、現職。東京大学政策評価研究教育センターセンター長。第4回円城寺次郎記念賞(2015年)、第11回日本経済学会石川賞(2016年)、第13回日本学士院学術奨励賞(2017年)、第13回日本学術振興会賞(2017年)など受賞。

川口大司氏



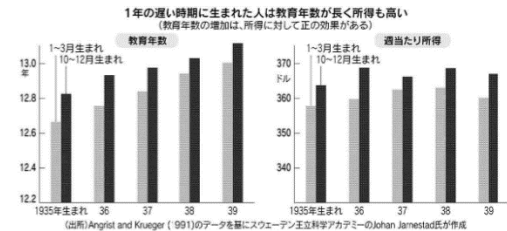
かわくち・だいいじ
1970年生まれ。ミシガン州立大学博士(経済学)。専門は労働経済学、実証ミクロ経済学。

経済学への関心は、幼少期の頃から。父は経済学者で、経済学の本や雑誌を家にいっぱい置いてくれた。高校生の時に、経済学の本をたくさん読んで、経済学が面白いと感じた。大学では、経済学を専攻し、博士課程で経済学を研究した。現在は、東京大学で経済学を教える。

ノーベル経済学賞にカード氏ら

川口大司 東京大学教授

「自然実験」で因果関係推定



ポイント
質の高いデータへのアクセスの意義を示す

最低賃金引き上げや従軍経験の影響推定
実証経済学や計量経済学の手法にも影響
質の高いデータへのアクセスの意義を示す

「自然実験」で因果関係推定
1年の遅い時期に生まれた人は教育年数が長く所得も高い
(教育年数の増加は、所得に対して正の効果がある)

ノーベル経済学賞にカード氏ら
川口大司 東京大学教授

「自然実験」で因果関係推定
ノーベル経済学賞に米3氏
(日本経済新聞,2021年10月20日)

講師

テーマ

米中ハイテク覇権競争と台湾半導体産業

日本貿易振興機構(ジエトロ)アジア経済研究所
地域研究センター・センター長

川上桃子氏

略歴

1991年東京大学経済学部卒業、アジア経済研究所入所。2008年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。2011年東京大学より博士(経済学)学位取得。
アジア経済研究所在台北・バークレー海外調査員、地域研究センター東アジア研究グループ長、同センター次長等を経て現職。
専門は台湾を中心とする東アジアの産業、企業。2013年6月に著書『圧縮された産業発展』により、第29回「大平正芳記念賞」を受賞。

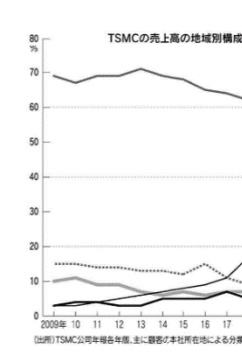


日本経済新聞

2021年(令和3年)11月26日(金曜日)
台湾半導体産業の競争力 TSMC、米中双方が重宝

川上桃子 日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター長

TSMC、米中双方が重宝



2009年10月、12月、14月、16月、18月、2021年3月(前期)

2021年(令和3年)11月26日(金曜日)

台湾半導体産業の競争力 TSMC、米中双方が重宝

川上桃子 日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター長

TSMC、米中双方が重宝

台湾半導体産業の競争力 TSMC、米中双方が重宝



かわかみ・ももこ
68年生まれ。東京大博士(経済学)。専門は台湾を中心とする東アジアの経済・産業。

中国(チャイナ)ファクターの政治社会学:台湾への影響力の浸透

迫り来る中国の影に台湾はどう向き合っているのか?

白水社

川上桃子・吳介民 編 川上桃子 監訳 津村あおい 訳

3月例会

2022. 3. 16
日時 令和四年三月十六日(水)

講師 足達英一郎氏

テーマ ステークホルダー資本主義ー株主至上主義から地球と

未来世代を視野に入れた新たな資本主義への脱皮

株式会社 日本総合研究所常務理事・未来社会価値研究所長

足達英一郎氏

■ 略 歴

1986年、一橋大学経済学部卒業。1990年、株式会社日本総合研究所入社。2005年3月～2009年5月には、ISO26000作業部会日本国エキスパートとして「組織の社会的責任に関する国際規格」の策定に携わる。共著書に『環境経営入門』(日本経済新聞出版社)、『自然資本入門』(NTT出版)、『投資家と企業のためのESG読本』(日経BP社)、『ビジネスパーソンのためのSDGsの教科書』(日経BP社)など多数。

足達英一郎氏



ビジネスパーソンのための

SDGs の 教科書

足達英一郎
村上芽
橋爪麻紀子
著

日経BP社

ビジネスパーソンのためのSDGsの教科書,
日経BP (2018/3/23)

足達英一郎

Adachi Eiichiro

SDGsの先へ
ステークホルダー
資本主義

貧困、格差、
気候変動……
悩める
資本主義の
現実的
処方箋！
地球と未来世代——
新しい資本主義への視座を
提供してくれる1冊

翁百合氏推薦！
(日本総合研究所理事長)

SDGsの先へ ステークホルダー資本主義,
集英社インターナショナル (2021/12/7)

4月例会

2022. 4. 13

日時 令和四年四月十三日(水)

テーマ 女性たちが見ている10年後の消費社会

講師 株式会社ハー・ストーリー代表取締役

日野 佳恵子氏

女性視点マーケティング
HERSTORY
<https://herstory.co.jp/>

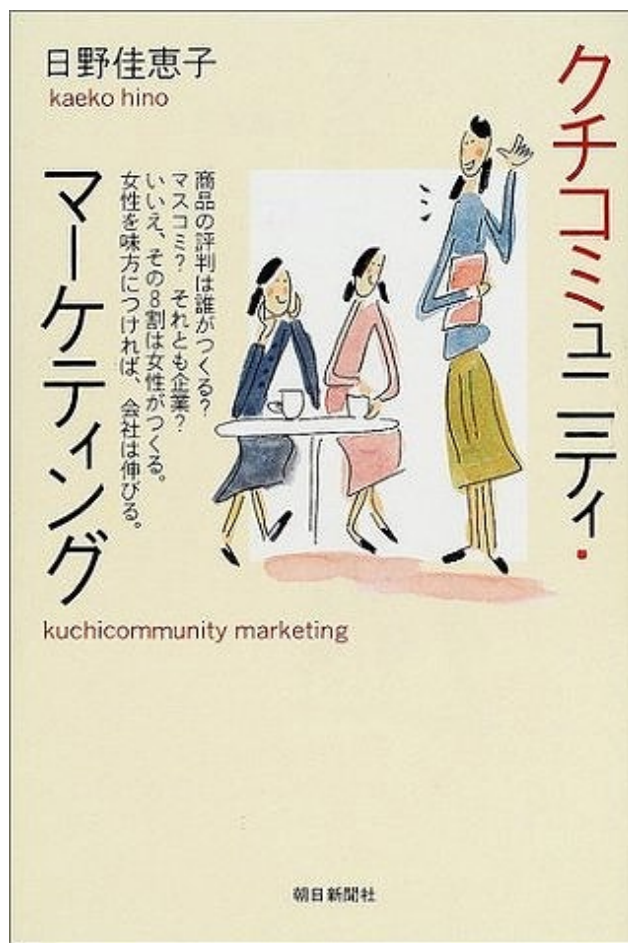
■ 略 歴

1990年広島市にて創業。消費全体の8割に影響を及ぼす女性の存在に着目した「女性視点マーケティング」を企業に提供。毎年、「女性トレンドセミナー」や「女性のあした大賞アワード」の開催、女性消費者動向や女性クラスターに関する分析レポートや動向レポートを発行するなど、女性たちの未来につながるさまざまなトレンド商品やサービスの調査や動向を追い続けている。

佳恵子氏



女性たちが見ている10年後の消費社会 市場の8割を左右する「女性視点マーケティング」, 同文館出版 (2021/2/5)



クチコミュニティ・マーケティング, わたしが主役が消費を動かす, 朝日新聞社 (2002/9/1)



持永大氏

■ 略 歴

早稲田大学大学院基幹理工学研究科情報理工学専攻博士課程修了。博士(工学)。株式会社三菱総合研究所にてネットワーク技術、サイバーセキュリティ関連技術、情報通信政策、及び外交・安全保障政策に関する中央官庁、民間企業等の調査・研究に従事。日経・CSISバーチャル・シンクタンク 第三期フェロー。2019年から慶應義塾大学SFC研究所。

2022. 5. 18

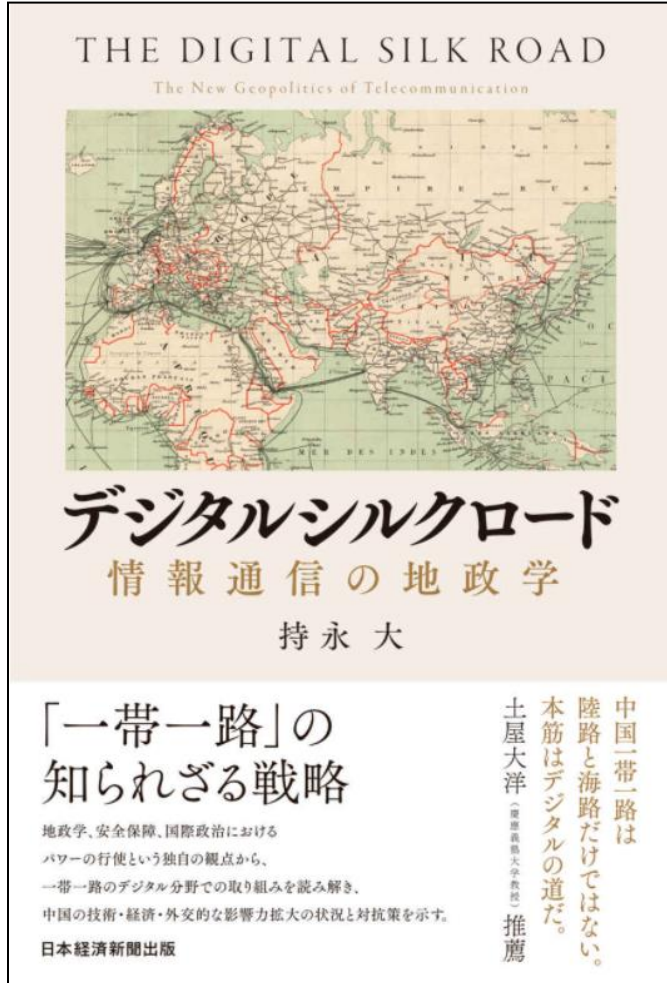
5月例会

日 時 令和四年五月十八日(水)

テ ー マ デジタルシルクロード・情報通信の地政学

講 師 慶應義塾大学のTPO研究所 上席所員

持永大氏



デジタルシルクロード 情報通信の地政学,日経BP (2022/1/8)

サイバー空間を支配する者 21世紀の国家・組織・個人の戦略, 日経BP (2018/8/24)

6月例会

日時 令和四年六月十四日(火)

テーマ 製造業のデジタル変容史

サイバー世界とフィジカル世界の好循環に向けて

講師 学習院大学 国際社会科学部 教授

柴田 友厚 氏



柴田 友厚 氏

■ 略 歴

1983年京都大学理学部卒業後、ファナック株式会社、笹川平和財団、香川大学教授、東北大学教授、仏レンヌ第1大学経営大学院日仏経営センター訪問教授等を経て、2020年より現職。

東北大学名誉教授。

筑波大学大学院経営・政策科学研究科修士課程修了(MBA)。

東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了(学術博士)。研究領域は技術経営戦略、製品開発戦略。

Analysis

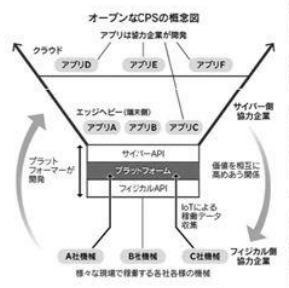


しばたともあつ 59年生まれ。筑波大学博士。経営学博士。東北大学名誉教授。東京大学名誉教授。

製造業のデジタル化④

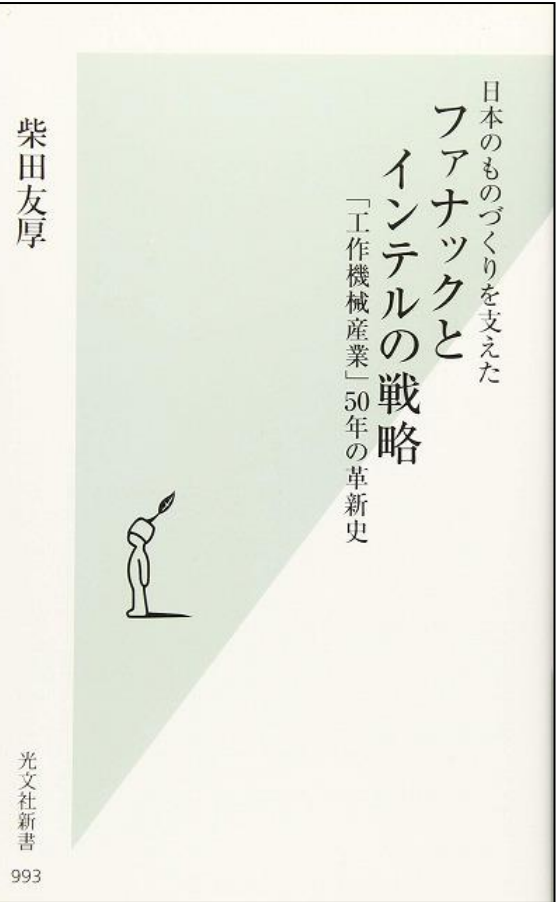
柴田友厚 学習院大学教授

現場の全体最適化を狙え



ポイント
 機械のデジタル化は日本が先行した歴史。サイバー世界とフィジカル世界の循環を。CPSはクラウドからオープンへ進化。

「工作機械産業」50年の革新史



7月例会

2022. 7. 13

日時 令和四年七月十三日(水)

テーマ 消費者によるイノベーション・分野外情報の有効性

講師 静岡大学大学院工学領域事業開発マネジメント系列 准教授

本條晴一郎氏

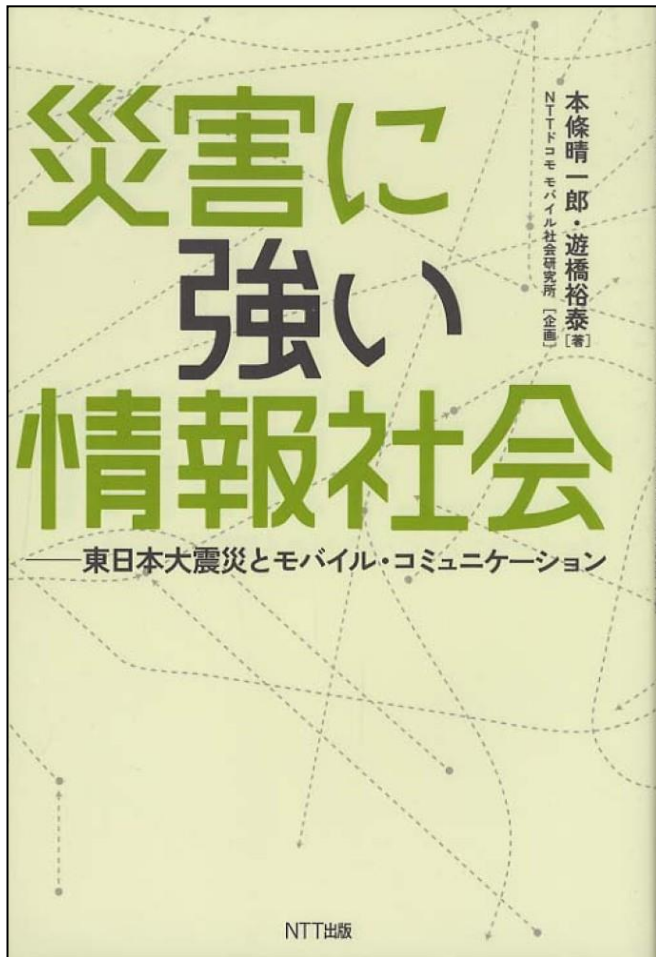
■ 略 歴

東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻および法政大学大学院経営学研究科経営学専攻修了。博士(学術)および博士(経営学)。学術振興会特別研究員、NTTドコモモバイル社会研究所副主任研究員等を経て2017年より現職。複雑系科学、脱植民地化の研究を経て、現在は製品やサービスの利用者自身が製品開発を行うユーザーイノベーション、意味をR&Dの対象とするデザインドリブンイノベーション(意味のイノベーション)、それらを支えるデジタルマーケティングおよびブランディング等の経営学的対象を、サイバネティクスを中心とした学際的な観点から研究している。

本條晴一郎氏



消費者によるイノベーション：分野外情報の有効性，千倉書房 (2022/3/2)



災害に強い情報社会：東日本大震災とモバイル・コミュニケーション，NTT出版 (2013/1/25)

8月例会

日時 令和四年八月二十四日(水)

テーマ 日本企業初の気候誓約

・石坂産業 Zero Waste Design」(シンポジウム)

講師 石坂産業株式会社代表取締役

石坂典子氏

■ 略 歴

高校卒業後、米国の大学に短期留学。父親が創業した石坂産業に1992年入社。埼玉県所沢市周辺の農作物がダイオキシンで汚染されているとの報道を機に、「私が会社を変える」と父親に直談判し、2002年社長就任。「社員が自分の子供も働かせたい」と言える企業創りを目指し、女性の感性と斬新な知性で産業廃棄物業界を変革する経営に組み“見せる・五感・ISO経営”に挑戦している。2018年日刊工業新聞社優秀経営者顕彰「第35回記念特別賞」「優秀経営者賞」受賞。財界「経営者賞」受賞。エイボン女性年度賞「ソーシャル・イノベーション賞」受賞。2021年度企業広報経営者賞受賞。

石坂典子氏



ISOの仕組みを経営の柱とし、「人と自然と技術が共生」する循環型社会の実現に向け、Zero Waste Design でのつぎの暮らしの創造に挑戦

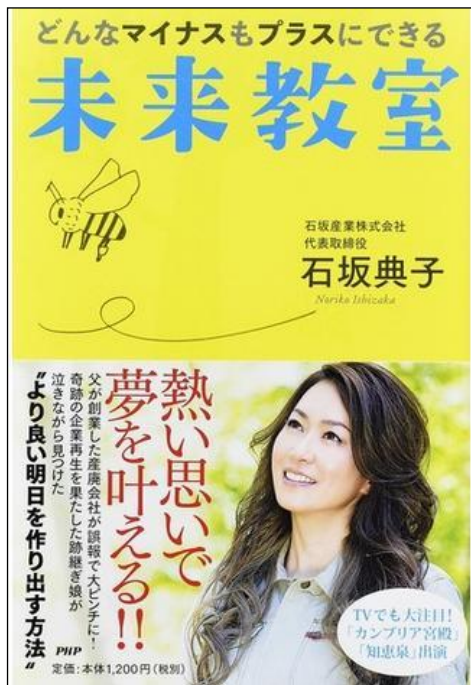


「産廃屋」なのにホテル？

「脱・産廃屋」へ、しがらみをキッパリ捨て、父や社員と格闘！見捨てられた里山を宝の山にし、全国から見学者が殺到中！

トヨタ、全日空、中南米・カリブ10か国大使……今、世界中が注目の経営者、初の著書！

ダイヤモンド社



どんなマイナスもプラスにできる未来教室、PHP研究所 (2017/6/21)



五感経営 産廃会社の娘、逆転を語る、日経BP (2016/9/16)

絶対絶命でも世界一愛される会社に変える！
- 2代目女性社長の号泣戦記、ダイヤモンド社 (2014/12/12)

9月例会

日時 令和四年九月十四日(水)

テーマ 新しい安全保障環境における尹錫悦政権の展望

講師 キヤノングローバル戦略研究所 主任研究員

伊藤弘太郎氏

■ 略 歴

2001年中央大学総合政策学部卒業、2004年同大学大学院総合政策研究科博士前期課程修了、2017年同大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。2022年同大学大学院より博士(政治学)取得。衆議院議員事務所、公益財団法人日本国際交流センター等での勤務を経て、2015年1月より内閣官房国家安全保障局にて、参事官補佐として韓国を中心とする東アジア地域の政策実務に携わった後、2017年7月より現職。2019年4月より立命館大学共通教育推進機構客員准教授、2022年4月より法政大学人間環境学部特任講師も務める。

伊藤弘太郎氏



防衛外交とは何か - 平時における軍事力の役割, 勁草書房 (2021/11/1)(第5章第3節, 第11章を分担執筆)



外交的英対話学習法 (国際社会で活躍するための必須英対話・用語用例集), (株)南雲堂 (2021/5/17)

2022. 10. 5

10月例会

日時 令和四年十月五日(水)

テーマ ESGカオスを超えて

講師 青山学院大学名誉教授・東京都立大学特任教授

北川哲雄氏



北川哲雄氏

■ 略 歴

早稲田大学商学部卒業、同大学院商学研究科修士課程修了、中央大学大学院商学研究科博士課程修了。博士(経済学)。シンクタンク研究員、運用機関リサーチャー等を経て、2005年より青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授。2019年より現職。専門は「ESG投資」「企業情報開示」および「コーポレートガバナンス」。主な現在の社会的活動として:経済産業省『非財務情報の開示指針研究会』座長、日本IR協議会『IR優良企業表彰委員会』委員長等を務める。



ESGカオスを超えて

新たな資本市場構築への道標

北川哲雄 [編著]
Kitagawa Tetsuo

最高の経営実践をめざすヒントがここにある
ESG活動で企業価値は高まるのか
ESGは、たんなる社会現象か
真のESGは、どう取り組めばよいのか

中央経済社



北川哲雄 編著
Kitagawa Tetsuo

バックキャスト思考とSDGs/ESG投資

未来にむけて…
企業とステークホルダーが
歩む道とは?

企業とステークホルダーは、持続的成長のために、どうコミュニケーションを図るべきか？
バックキャスト思考に基づいた、イノベーションの予兆を感じさせる情報開示、そして投資家の視点について多面的に検討する！

同文館出版

ESGカオスを超えて - 新たな資本市場構築への道標, 中央経済グループパブリッシング (2022/5/10)

バックキャスト思考とSDGs/ESG投資, 同文館出版 (2019/3/4)

2022. 11. 16

11月例会

日時 令和四年十一月十六日(水)

テーマ 中国減速の深層

講師 大阪経済大学経済学部教授

福本智之氏

■ 略 歴

1989年日本銀行入行。2000年在中国大使館一等書記官、2010年日本銀行国際局総務課長、2011年国際局参事役(IMF世界銀行東京総会準備を担当)、2012年北京事務所長、2015年北九州支店長、2018年国際局審議役(アジア担当総括)、2020年国際局長を歴任、2021年日本銀行退職。同年4月より現職。経営共創基盤シニアフェロー、東京財団政策研究所研究員。1989年京都大学法学部卒業、1995年香港中文大学・1996年对外経済貿易大学留学、2008~2009年ハーバード大学ケネディ行政学院フェロー。

福本智之氏



宮本雄二・伊集院敦・日本経済研究センター◎編著

The Latest Risk Analysis of East Asia

東アジア 最新リスク分析

「新冷戦」下の
経済安全保障

サブライチエーン、
ビジネスモデル、
金融、感染症、
温暖化――。

知られざる危機を
第一人者が解説。

日本経済新聞出版

東アジア 最新リスク分析「新冷戦」下の経済安全保障,日経BP
日本経済新聞出版 (2022/6/24) (3章を分担執筆)

福本智之
Tomoyuki Fukumoto

SLOW 中国減速 の深層 DOWN

「共同富裕」時代の
リスクとチャンス

失速リスクを見極め
3つの予測シナリオを提示
不動産の下落、ハイテク分野の米中デカップリングに耐え、
減速してなお主要国トップの成長を維持する巨大市場に
日本企業の活路を探る。

日本経済新聞出版

中国減速の深層「共同富裕」時代のリスクとチャンス,
日経BP 日本経済新聞出版 (2022/6/18)

12月例会

日時 令和四年十二月十四日(水)

テーマ 気候変動と「日本人」20万年史ーイノベーションへの歴史的示唆

講師 早稲田大学 理工学術院 大学院創造理工学研究科 特任教授

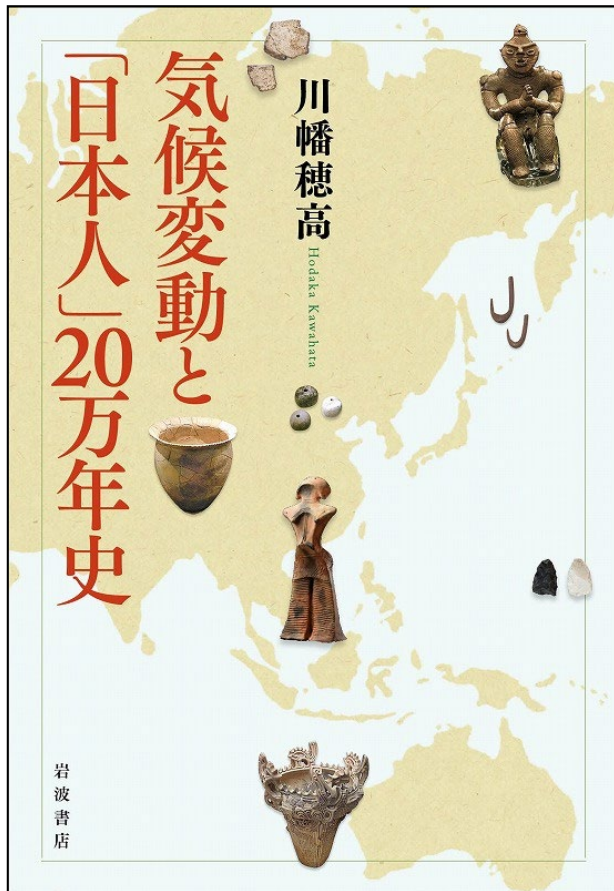
東京大学大気海洋研究所 名誉教授

川幡穂高氏

■ 略 歴

東京大学理学部化学科卒業、同大学大学院理学系研究科地質専門課程にて理学博士号取得。産業技術総合研究所(旧通商産業省工業技術院地質調査所)グループ長、東北大学理学部教授、東京大学大気海洋研究所教授などを経て、東京大学名誉教授、早稲田大学特任教授、雲南大学高等研究員、日本地球化学会および日本地球惑星科学連合元会長。専門は、生物地球化学をベースとした現代と過去の物質循環研究。2019年度文部科学大臣表彰科学技術賞など受賞。

川幡穂高氏



気候変動と「日本人」20万年史, 岩波書店 (2022/4/15)



地球表層環境の進化 - 先カンブリア時代から近未来まで, 東京大学出版会 (2011/7/29)